

あいち病害虫情報 最新情報

平成 24 年 4 月 17 日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

ムギ類赤かび病防除

ムギ類赤かび病の感染予防のための防除適期は、穂ぞろい期から開花初期までです。本年のコムギの出穂は平年より遅れていますが、品種によっては出穂が始まっているところもあります。

17日発表の週間天気予報によれば、向こう1週間は、期間のはじめは高気圧に覆われて晴れますが、その後は気圧の谷や湿った気流の影響で雲が広がりやすく、中頃は雨の降る日もある見込みとなっています。最高気温は、期間のはじめと終わりは平年並か平年より高いですが、中頃は平年より低く、最低気温は概ね平年並と予測されています。降水量は平年並と予測されており、感染の好適条件となるおそれは少ない見込みです。

今後、赤かび病の防除適期（出穂から3～4日後）を迎えますので、ほ場でのムギ類の生育をよく観察し、穂が出そろったほ場から順次防除を進めましょう。

水稻の育苗期防除

普通栽培の播種作業が始まります。次の点に注意して適正な種子消毒に努めましょう。

- 1 細菌性病害にも効果のあるテクリードCフロアブルなどを用いて、種子消毒を行う。
- 2 浸漬処理法の場合、薬液温度は15～20とし、処理濃度と時間を守る。処理後、種子に薬剤を十分に付着させるためによく風乾する。
- 3 温湯種子消毒の場合、適切な処理温度、時間（例：60、10分）を守る。
- 4 高温での浸種や長時間催芽は細菌感染を助長するので避ける。
- 5 出芽温度は30～32を守る。
- 6 種子消毒後の廃液は、適正に処理する。浸漬処理後の廃液処理が困難な場合には、種子粉衣（湿粉衣法）や塗沫法などの消毒方法に切り替えましょう。また、温湯種子消毒やエコホープDJなどの微生物農薬を利用するのも良い方法です。ただし、微生物農薬による種子消毒は、薬液の温度が10以下だと効果が劣るので注意しましょう。
- 7 種子消毒後は病原菌の汚染がないよう管理する。

6月下旬まで果樹カメムシ類はやや多い！

果樹カメムシ（チャバネアオカメムシ）の飛来数は、越冬成虫量と前年のスギ・ヒノキ科花粉総飛散数でおおよそ予測できます。今年の果樹カメムシ（チャバネアオカメムシ）の越冬成虫量は平年並でしたが、昨年（2012年）のスギ・ヒノキ科花粉総飛散数は過去10年で最も多かったため、6月下旬までは果樹カメムシ類の飛来数はやや多いと予測します。詳細は、4月4日発表の「果樹カメムシ情報第1号」を参照してください。

落葉果樹の病害虫

モモハモグリガの越冬世代成虫のフェロモントラップによる誘殺数は、今のところ少ない状況です。しかし、第一世代ふ化幼虫の防除適期を逃すと、その後の世代は生育ステージがばらつくため、防除が難しくなります。落花1週間後を目安に防除しましょう。

ナシヒメシンクイ越冬世代成虫のフェロモントラップは、平年に比べ誘殺始めが遅く、誘殺数のピークが10日程度遅くなる見込みです。越冬世代成虫は今後、展葉したモモの葉に産卵し、ふ化した幼虫が新梢に食入して芯折れを引き起こしますので、防除適期を逃さぬようモモハモグリガとともに防除しましょう。

ナシ黒星病は、4月上旬の発病花そう基部率調査で平年並の発生ですが、降雨が続くと発生量が増加するおそれがあります。昨年秋の発生量もやや多かったので注意しましょう。ナシ赤星病の冬孢子層は成熟してきており、小生子の本格的な飛散が始まります。開花後の防除適期を逃さないように注意し、降雨が続く場合は、黒星病などとともに防除しましょう。

モモでは、4月3日に強風を伴う降雨があったこともあり、せん孔細菌病の発生が懸念されます。昨年発生が多かったほ場では、新梢からの感染を防ぐため薬剤防除を徹底し、春型枝病斑は見つけ次第、取り除きましょう。

ブドウ黒とう病は、展葉初期から新梢伸長期に降雨が続くと多発しやすくなります。伝染源である前年の罹病枝や巻きひげは、切り取って適切に処分するとともに、適期防除を心がけましょう。

果菜類の病害虫

ナスでは、うどんこ病とすすかび病の発生がやや多い状況です。同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション防除を心がけましょう。被害部は新たな伝染源となるので、早期除去に努めましょう。

ミナミキイロアザミウマの発生量が増加してきました。多発すると防除が難しくなるので、密度の低いうちから防除を徹底しましょう。

ウイルス媒介虫を施設外に出さないようにしましょう！

トマト黄化葉巻病やキュウリ黄化えそ病の防除対策の基本は、ウイルス媒介虫を施設内に入れない、施設内で増やさない、施設外に出さないの3つです。次作の感染源を減らすためにウイルス媒介虫を施設外に出さないことを徹底しましょう。

トマト黄化葉巻病が発生している施設では、収穫終了後、残さを持ち出す前に施設を密閉してウイルスを媒介するタバココナジラミを死滅させましょう。

キュウリでは、自然換気が行われる時期ですが、施設開口部にはネットなどを張り、キュウリ黄化えそ病を媒介するミナミキイロアザミウマを外に出さないようにしましょう。

農薬は安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。

防除の際は、周辺作物に飛散しないよう注意しましょう。

農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも洗いもれがないようにしましょう。

問い合わせ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室

TEL 0561-62-0085 FAX 0561-63-7820